

環境用語辞典

ア カ サ タ ナ ハ マ ヤ ラ ワ 英数

カ

【 開発途上国(かいはつとじょうこく) 】

貧困(ひんこん)や人口増加問題などに苦しんで、[先進国](#)(せんしんこく)より経済発展(けいざいはってん)が遅れている国のこと。

【 化学肥料(かがくひりょう) 】

化学的(かがくてき)につくられた肥料(ひりょう)のこと。植物・農作物がよく育つように栄養分(えいようぶん)のバランスがよくとれている。

【 カーシェアリング 】

自動車を複数の人が共同で使用する、新しい自動車の所有(しゅゆう)方法。自動車が空いていれば、使いたい日に使いたい時間だけ利用できる。カーシェアリングが広がると自動車の保有(ほゆう)台数がへるため、排気(はいき)ガスが少なくなり、[CO₂削減](#)(さくげん)につながる。

【 化石燃料(かせきねんりょう) 】

大昔に生きていた動物や植物の死がい(いがい)が地中に埋もれて、長い年月をかけてできあがった燃料(ねんりょう)のこと。主なものに[石炭](#)、[石油](#)、[天然ガス](#)がある。たとえば、[石炭](#)は3億6,000年以上の古生代(こせいだい)の石炭紀(せきたんき)に生息(せいそく)していた植物の遺骸(いがい)などが地中で炭化(たんか)したものとされている。

【 褐虫藻(かっちゅうそう) 】

単細胞(たんさいぼう)の藻類(そうい)でサンゴやイソギンチャクなどと共生(きょうせい)する。大きさは100分の1ミリメートルで、サンゴの中で光合成(こうごうせい)を行い、サンゴやサンゴ礁(しょう)に集まる魚などに栄養(えいよう)をあたえる役割(やくわり)を果(はた)している。

【 家電リサイクル法 】

テレビ、冷蔵庫、エアコン、洗濯機・衣類乾燥機(せんたくき・いるいかんそうき)の家電4製品の[リサイクル](#)を、製品をつくったメーカーに義務づけた法律で2001年にスタートした。[リサイクル](#)にかかる費用(ひよう)は消費者(しょうひしゃ)が負担(ふたん)するしくみになっている。

【 カーボンオフセット 】

[CO₂](#)の排出(はいしゅつ)の削減(さくげん)をできる限り行った上で、それでも出てしまう[CO₂](#)について、植林やクリーンエネルギーの利用など、他の活動によって吸収(きゅうしゅう)して、[CO₂](#)の排出(はいしゅつ)を実質(じっしつ)ゼロにしようという考え方。

【 カーボンニュートラル 】

カーボンオフセットによってCO₂の排出(はいしゅつ)と吸収(きゅうしゅう)の量が同じとなる、つまりCO₂の排出がゼロになった状態(じょうたい)のこと。また、木材などを燃料(ねんりょう)として燃やしたときに出るCO₂は、その木が成長する段階(だんかい)で吸収したCO₂が排出されると考え、地球全体ではCO₂が増えていないとする考え方もカーボンニュートラルとされる。

【 火力発電所 】

石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料(かせきねんりょう)を燃やしてお湯をわかし、その蒸気(じょうき)で発電機(はつでんき)をまわして、電気をつくる発電所のこと。日本の電気の6割は火力発電によってつくられている。※

※出典:電気事業連合会

参考(さんこう):資源・エネルギー編「[エネルギーってなに?](#)」

【 間伐材(かんばつざい) 】

森林が成長するように、間引いて伐採(ばっさい)される木のこと。[バイオマス燃料](#)(ねんりょう)などに利用される。

キ

【 共同実施(きょうどうじっし) 】

[京都議定書](#)(きょうとぎていしよ)に盛り込まれた、[温室効果\(おんしつこうか\)ガス](#)の削減(さくげん)目標(たっせい)を達成(たっせい)するために導入(どうにゅう)された[京都メカニズム](#)の一つ。[先進国](#)(せんしんこく)同士が共同で[温室効果ガス](#)削減を行い、削減した分を資金や技術を提供(ていきょう)した国が目標の達成に利用できる制度(せいど)。

【 京都議定書(きょうとぎていしよ) 】

正式(せいしき)な名前は「気候変動(きこうへんどう)に関する国際連合枠組条約(こくさいれんごうわくぐみじょうやく)の京都議定書(きょうとぎていしよ)」。1997年に京都で開かれた「第3回気候変動枠組条約締約国会議(きこうへんどうわくぐみじょうやくていやくこくかいぎ)」でまとめられ、1990年を基準(きじゆん)とした、[先進国](#)(せんしんこく)の[温室効果\(おんしつこうか\)ガス削減\(さくげん\)目標](#)が定められている。

【 京都メカニズム 】

[先進国](#)(せんしんこく)が[温室効果\(おんしつこうか\)ガスの削減\(さくげん\)目標](#)を達成しやすく、[京都議定書](#)(きょうとぎていしよ)でつくられたしくみ。他国と協力して地球全体の[温室効果ガス](#)を削減する方法で、[共同実施](#)[JI]、[クリーン開発メカニズム](#)[CDM]、[排出量取引](#)(はいしゅつりょうとりひき)の3種類がある。

ク

【 クリーンエネルギー 】

CO₂などの[温室効果\(おんしつこうか\)ガス](#)を排出(はいしゅつ)しない、または排出の少ないエネルギーのこと。太陽光(熱)、風力、地熱、バイオマス、[水素](#)、[天然ガス](#)などが、クリーンエネルギーとされている。

【 クリーン開発メカニズム 】

[京都議定書](#)(きょうとぎていしよ)に盛り込まれた、[温室効果\(おんしつこうか\)ガス](#)の削減(さくげん)目標(たっせい)を達成(たっせい)するために導入(どうにゅう)された[京都メカニズム](#)の一つ。[先進国](#)(せんしんこく)が[開発途上国](#)(かいはつとじょうこく)に資金や技術を提供し、[開発途上国](#)において[温室効果ガス](#)削減を行い、削減した分を先

[進国](#)が目標の達成に利用できる制度(せいど)。

【グリーン物流(ぶつりゅう)】

企業(きぎょう)が物を運ぶときに、[CO₂](#)をできるだけ排出(はいしゅつ)しないようにする輸送(ゆそう)方法。[CO₂](#)排出の少ない船や鉄道の利用、トラックの共同利用(きょうどうりよう)、低公害車(ていこうがいしゃ)の使用など、いろいろな方法がある。運ぶ距離(きょり)を短くし、燃料(ねんりょう)を節約(せつやく)したり、運転を記録(きろく)して安全でムダのない運転をしているかを確認(かくにん)したり、省エネ・安全運転の指導(しどう)を行ったりもする。

ケ

【下水汚泥(げすいおでい)】

家庭や工場などから出た汚(よご)れた水をきれいに処理(しより)する途中(とちゅう)で出てくる泥状(どろじょう)の物質。[バイオマス燃料](#)(ねんりょう)として再利用することが可能。

【下水処理場(げすいしよりじょう)】

家庭などから出た汚(よご)れた水をきれいにし、川や海に流すための施設(しせつ)。

【ケミカルリサイクル】

[リサイクル](#)方法の一つで、廃棄物(はいきぶつ)を化学分解(ぶんかい)し、原料の段階(だんかい)までもどして再利用すること。

コ

【高温岩体(こうおんがんたい)発電】

[地熱発電](#)方法の一つで、地中深くにある熱をもった岩に水をそそぎ、熱水(ねつすい)を人工的(じんこうてき)につくりだして発電する方法。

【光合成(こうごうせい)】

陸上の木や草などや、海中の藻類(そうい)などが、水と太陽光と[CO₂](#)を使って、酸素と糖分(とうぶん)をつくりだすこと。

【国際連合(こくさいれんごう)】

「全世界の平和を守ること」「各国の間に友好関係(ゆうこうかんけい)をつくりあげること」などを目的に、1945年につくられた国際機関(こくさいきかん)。2009年現在、192カ国が加盟(かめい)している。

【コージェネレーションシステム】

発電時に発生する熱を再利用して、お湯をわかしたり、暖房(だんぼう)に利用するシステムのこと。

▲ページの先頭へ